# 2 火災編

### 火災概況

#### 出火件数及び種別

#### 件数

令和6年の出火件数は65件で、前年より21件減少した。

#### 種別

火災種別ごとに見ると、「建物火災」が50件で全体の76.9%を占め、前年と比較して20件減少した。

「車両火災」は9件で前年と比較して2件増加、「その他の火災」は6件で前年と比較して3件減少した。

#### 損害額

火災による損害額は5,295万4千円で、前年と比較して9,578万7千円減少した。これは住民1人当たりでは162円、1日当たりでは14万5千円であった。

#### 焼損床面積

火災による建物の焼損床面積は1,219㎡で、前年と比較して2,828㎡減少した。 焼損表面積は155㎡で、前年と比較して58㎡減少した。

#### 死傷者

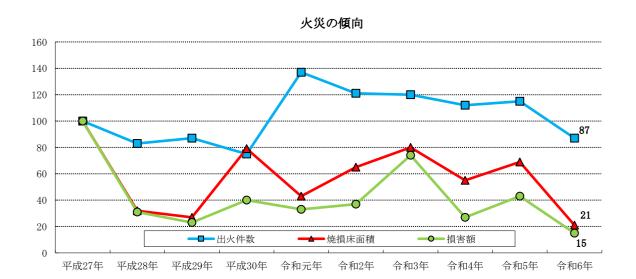
火災による死者は4人と前年と比較して4人減少で、発生した死者は全て建物火災によるものであった。死亡に至った経過は、「逃げ遅れ」が2人、「不明」が2人となっている。

火災による負傷者は8人で、前年と比較して14人減少している。

#### 出火原因

出火原因の第1位は「こんろ」の14件、第2位は「ストーブ」の5件、第3位は「電灯・電話等の配線」の4件、第4位は同数で「たばこ」、「排気管」及び「焼却炉」が共に3件となっている。

#### (指数) 平成27年=100



# 火災発生状況 (前年比較)

区分		年	令 和 6 年	令 和 5 年	増減
		合 計	65	86	△ 21
		(爆 発)	-	_	_
		小 計	50	70	△ 20
	建	全 焼	9	14	△ 5
出火		半焼	1	10	△ 9
出火件数	物	部分焼	12	13	△ 1
200		ぼや	28	33	△ 5
	林	野	-	_	_
	車	両	9	7	2
	そ	の他	6	9	△ 3
焼	建	床面積(㎡)	1, 219	4, 047	△ 2,828
焼損面積	物	表面積(㎡)	155	213	△ 58
積	林	:野(a)	-	-	_
	í	信(	52, 954	148, 741	△ 95, 787
	建物		39, 640	112, 476	△ 72,836
損 害 額	収容物		10, 635	27, 594	△ 16, 959
額	林	野	_	_	_
(千円)	車両その他		2, 673	8, 391	△ 5,718
			6	280	△ 274
	爆	発	_	_	_
焼 損	棟	数(棟)	71	92	△ 21
り災	世	帯数	40	80	△ 40
り災		人員	81	140	△ 59
邧	í	信(	12	30	△ 18
死傷者数	死		4	8	△ 4
者数		傷者	8	22	△ 14
	30	日死者	_	1	△ 1
出	火	率	2.0	2.6	△ 0.6

<sup>※</sup> 出火率=人口1万人当たりの出火件数を示す。

市・道・国の火災発生状況比較

【年】

区分		団体	名	旭川市消防本部	北海道	全 国			
出り	~	件	数	65	1, 674	37, 036			
		t 物 火 災 件 —————	F 剱 ———	(50)	(1, 050)	(20, 908)			
損害	客	頁 (千)	円)	52, 954	3, 129, 575	92, 895, 402			
	建物	焼損床面積	$f(m^2)$	1, 219	51, 941	969, 767			
焼損面積	建物	焼損表面積	(m²)	155	107, 746				
	林  野		(a)	_	742	106, 785			
焼損	棟数(棟)		東 )	71	1, 352	29, 927			
り災	世	带	数	40	707	18, 364			
死傷	者 -	死 老		4	75	1, 436			
<u> Уц. 199</u>	4	負 傷	者	8	245	5, 742			
1日当た	. b a	の出火件	数	0. 18	4. 59	101. 47			
時間	ح	出	火	134時間46分に1件	5時間14分に1件	14分に1件			
1件当た	<b>у</b> О.	)損害額(ヨ	千円)	815	1,870	2, 508			
建物火災1件量	当たり	の焼損床面積	責(m²)	24. 38	49. 47	46. 38			

出火原因 [年]

原	順位	1	2	3	4	4	4	7	7	7	7	11	11	11	11	_	
人因		ſĭ	ス	電	た	排	焼	電	配	マ	放	か	煙	電	溶	そ	不
				灯・						ッチ	火		突		接		明
			۲	電				気	線	•	放	,		気	•		•
		ん	ì	話等	ば	気	却	T010	00	ラ	火	ま	•	/1+-	溶	の	調
火				$\mathcal{O}$				機	器	イ	(J)		煙	装	断		查
災種別		ろ	ブ	配線	J.	管	炉	器	具	ター	疑い	Į.,	道	置	機	他	中
合計	65	14	5	4	3	3	3	2	2	2	2	1	1	1	1	13	8
建物	50	14	5	2	2	_	2	2	2	1	2	1	1	_	1	8	7
車両	9	_	_	_	_	3	_	_	_	_	_	_	_	1	_	4	1
 林野	_	_	_	_	_		_	_		_	_		_	_			_
その他	6	_	_	2	1	_	1			1				_	_	1	_
	_	_	_		_	_			_		_	_		_	_	_	_
爆発	-	-	_	_	_	_	-	_	_	-	_	-	-	_	-	-	-

#### 「非火災」発生状況

火災に係る消防隊の出動件数は609件で、このうち544件が火災に至らなかった事案 「非火災」であった。

時間が経過すると火災になる危険が高かった非火災は19件であった。 また、火災になる危険が高かった非火災のうち、緊急通報システム「ホットライン 119」によって自動覚知・自動通報され火災に至らなかった事案は0件であった。

○ 出動件数609件の内訳

【年】

## 火災に至らなかった事案(非火災) 544件

火災 65件

○ 火災に至らなかった事案(非火災件数)544件の内訳

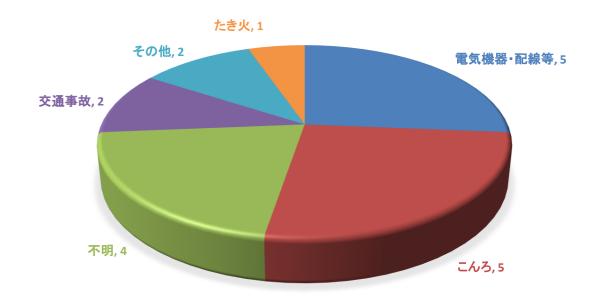
【年】

火災になる危 険が高い事案 19件

火災になる危険が低い事案 525件

○ 火災になる危険が高かった非火災の原因(19件の内訳)

【年】



#### 住宅用火災警報器の設置状況

消防法の改正により、平成23年5月31日から住宅用火災警報器の設置が全住宅に義務付けられた。これに伴い、出火建物における住宅用火災警報器及び自動火災報知設備の設置の有無、発報(作動)の有無について、昨年と比較する形でまとめた。

建物火災にあっては50件あり、そのうち住宅用火災警報器の設置義務がある建物における火災件数は17件、自動火災報知設備が設置されている、又は設置義務がある建物における火災件数は17件となっている。

#### 出火建物における住宅用火災警報器等の設置状況

(単位:件)

設置状況 (年)		住宅	用火	災警	報器	:		自動	火災					
		設置	あり		沙黑	· <del>/</del> > 1	設置あり				- 設置なし		設置の 有無が 不明	
焼損程度	発報	:あり	発報(不		設置なし・		発報あり		発報なし					
	R5	R6	R5	R6	R5	R6	R5	R6	R5	R6	R5	R6	R5	R6
全 焼	1	_	1 (1)	_	5	1	_	_	_	_	_	_	3	5
半焼	1	_	2 (2)	_	3	1	1	_	_	_	_	_	-	_
部分燒	_	_	1 (1)	1	3	2	3	4	_	1	1	_	2	_
ぼや	2	4	5 (4)	4 (4)	4	4	4	7	3	5	1	_	5	2
合 計	4	4	9 (8)	5 (4)	15	8	8	11	3	6	2	-	10	7

<sup>※ ( )</sup>内の数値は、内数を表す。